

須津地区まちづくり協議会 広報

令和5年 7 / 1

No.19

須マイル

題字・デザイン=望月 佑奈さん（中里4）

暗い夜道をドクターイエローが駆け抜ける
とてもカッコいい写真でしたので、文字も須津に
光が駆け抜けて行くようなデザインにしました。

編集・発行

一般社団法人 須津地区まちづくり協議会

事務局：須津まちづくりセンター

TEL：34-0004

第6回すどフォトコンテスト グランプリ作品「常夜灯に照らされて」

須津は、県内外の鉄道写真愛好家がドクターイエローと富士山を目指して大勢訪れる所です。
日中とは違い、日が暮れると常夜灯が車輛を照らし、その瞬間を捉えた流し撮りの一コマです。

撮影 中野 進さん（中里3）



須津コミュニティビジネス いよいよ始まりました

しゅうちゃんの農業塾



須津コミュニティビジネス「しゅうちゃんの農業塾」が始まりました。初回4月23日(日)は晴天に恵まれ、7名の受講生は講師の山田修司さんの指導の下、汗を流していました。



コミュニティビジネス本部長 鈴木章司 (川尻1)



地域の課題を地域住民が主体的に、ビジネスの手法を用いて解決する取り組みです。須津地区まちづくり協議会でも地域資源を生かした事業を具体化すべく、第1弾として農業塾を開始しました。今後は市と連携し持続可能な事業を立ち上げ、結果として得た利益を全て地域に還元する仕組みの構築を目指します。



しゅうちゃん先生は農業博士
回でも優しく教えてくれます



先生の指導で畝の
扱ひもなごよく
曲がらずきれいに



野菜好きで我が子に
新鮮で美味しい野菜
を食させたいと、
受講したお母さん



和気あいあいと楽しい時間です



西瓜の苗を
甘い西瓜ができるといいね



苗を害虫から
守ります

毎月第2土曜日は「おはなし会の日」

おはなしの会 トロ

0歳から幼児まで



ママも一緒に



よいさっさん形は
みんな大好き



「大根漬け」はスリル満点
だいこん〜♪ 歌って遊びます

トロってどんなことをやっているのかな

あのね、赤ちゃんから幼児、小学生も仲間入りすることも。2Fの和室でお母さんやスタッフと一緒に、絵本を読んだり、手遊びで歌って遊びます。

赤ちゃんって絵本がわかるのかな

はい。へその緒でお母さんとつながっていたから、わかります。

人形劇も仲間入りしますよ。

代表 渡邊 千重美 (神谷1)



トロの日

須津まちづくりセンター
2F 和室 10時から

2023

7/8(土).9/9(土).10/14(土)

11/11(土)

2024

2/10(土).3/9(土)

楽しいエプロンシアター



小学生位から

おとぎのへや



「ストーリーテリング」

お話の世界に引き込まれます



工作大好き



須津小学校児童を対象に、定期的におはなし会を開催しています。絵本・紙芝居・ストーリーテリングを中心に、季節の行事や工作やゲーム等を組み込んだ60分のプログラムです。

平成3年から始めて今年で32年。これからも子ども達と一緒にお話の世界を楽しみたいと思っています。

代表 米田 容子 (神谷緑)



「にぎやかなともだち」16倍に
広がる絵本に子ども達たちは夢中



おとぎのへやの日

須津まちづくりセンター
2F 集会室 10時から

2023

7/8(土).10/14(土)

2024

1/13(土).3/9(土)

シリーズ夢を創る

アコバレエアカデミー主宰

鎌田亜子さん(旧姓山崎)



須津中学校卒業後、高校の途中で単身ロシアへ渡り、世界でも屈指と言われる「ワガノアバレエアカデミー」に留学する。ロシア語には親しむ事ができたが、共に学ぶロシアの生徒たちのスタイルの美しさにはかなわないものを痛感したようだ。3年間の修養を経た頃にはロシアが大好きになり、その後大学の舞踏学科で学ぶ道を選ぶ。

ところが、ロシアのバレエ団で踊るという夢は、世界を震撼させたアメリカの同時多発テロに端を発した、モスクワでのテロ事件の頻発により潰れてしまふ。その後やむなく帰国し、踊る舞台を日本に求める。東京バレエ団を経て、熊川哲也のKバレエカンパニーに移籍、年間国内50以上の公演をこなすハードな日々の中、メニエール病を発症し舞台上に立つことが困難になる。亜子さんのバレエ人生は岐路に立つこととなった。

現在、亜子さんはご自身のバレエスタジオで、80人もの生徒さんを教える先生である。世界の舞台で踊るといふ亜子さんの夢は今、子どもたちの夢を叶えるという夢に変わったのである。本場ロシアでの研鑽の日々や数々の舞台で習得してきた知識や技術、紡いできた貴重な人脈は、子どもたちを導いていく上で、素晴らしい宝となっている。

(記I・H)



須津のれきし探訪(シリーズ第19回)

須津と江戸I 須津地区の「殿さま」⑦ 中里村の殿さま② 戸田氏③

杉本 寛郎 (富士山かくや姫ミュージアム学芸員)

中里村の殿さまとなった戸田忠春ですが、旗本(禄高一万石未満の徳川家臣)は通常江戸にいて将軍に仕える決まりとなっていたため、中里村にいたことはありませんでした。忠春の跡を継いだのは、旗本上田氏の二男・忠就(ただなり)でした。忠就は五代將軍綱吉の近習(きんじゅう)・小姓(こしょう)として側近くで仕え、その後、忠春の娘をめぐり、養子となつて旗本戸田氏を継ぎました。忠就は書院番組頭や先手鉄炮頭(さきてつぱうがしら)を勤めました。書院番とは江戸城の中雀門・上埋門(かみうずみもん)の警備、儀式での將軍の世話・雑用、將軍外出時の警備、江戸市中の巡回などを勤め、旗本の出世コースの入口でした。先手鉄炮頭は武勇の誉れある人が任せられ、戦時には与力・同心を率いて先陣を勤め、平時には江戸城外堀の門の警備や將軍が寛永寺や増上寺に参詣する際の警備を勤めました。忠就は將軍家宣・家継・吉宗に仕える軍事官僚でした。

わたしのふるさと

平成3年の『雲仙普賢岳噴火・火砕流』の記憶有りますか？
そこが長崎県島原、私の故郷です。

温暖な気候で温厚な人柄の方が多く暮らしています。古くは、「天草四郎」を旗頭にした「島原の乱」の跡地が有り、また豊かな湧水が多く「鯉の泳ぐ街」として、安らぎを覚える古き歴史とロマンの故郷です。

昭和40年、18歳で富士市へ来て58年、今では故郷の様子も変化、災害記念館等々が建設され、人々の生活も未来へ歩き出している。

現在76歳、自分の生き方を振り返ると、島原や富士市での家族・仕事・友人知人との関りの中で、2つのふるさとの環境・人柄がとても似ている様に思う。

残り少ない人生を【生まれ育った故郷・第二の故郷富士】で多くの人へ感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいな～と思っている。

(K・W人)



編集後記

先日のTV『大人の学びについて』の番組で、事はいつでも始められると...

やりたい事を書き出してみると山ほどありました。残された時間を有意義に、やるからには悔いなく取り組めるよう、毎日過ごしていきたいものです。時間はいくらあっても足りない！とつくづく感じる今日この頃。

やりたい時がはじめ時！まさしく“今でしょ！”

(えがえが)

須マイル編集スタッフ、カメラマン大募集

興味のある方は、須津まちづくりセンター (34-0004) へ連絡ください

